

何人

山行報告書

山名	宝永山 (2693m)			報告者	長岡浩一		
H13年2月3日	裾野市役所5:30~青年の家~表富士周遊道路1050m付近駐車7:00~						
コース及びタイム	宝永山12:40~2合目で乾杯~周遊道路駐車地点14:20終了						
標高差	△S	1100m	~ T	2693m	≒ 1600m	体力度	1・2・3・4・⑤・6
	▽T	2693m	~ G	1100m	≒ 1600m	技術度	1・2・3・④・5・6
走行距離	~			≒	km	展望度	1・2・3・4・⑤・6
参加者	CL	後藤隆徳	53	とにかく最高! ということなし。			
		加藤秀子	51	登った登った、滑った滑った。でも私、全然疲れな一い。			
		花沢秀治	41	今シーズン中にやっつけるぞ。			
		渡辺昭二	38	魂の滑りを見よ!			
		長岡浩一	41	近くに住んでいてもチャンスはそうない。う~れちい!			

1週間前の1月27日(土)、御殿場に48cmもの大雪が降った。翌日、宝永山からパウダーを…。というのは甘く、青年の家から先通行止め。950m付近まで強引に車で入るが、そこから深い雪の長い長い周遊道路を登った。須走より大きな雪崩のあともあり、危険なので二つ塚に変更したのだった。それでも標高差1000mを登って滑り、それなりに満足はした。しかし、そのすぐ上には宝永山のすばらしい大斜面がある。

2月3日(土)、快晴。じっとしていられるだろうか。朝6時半、青年の家の前に仲間が集まっていた。(偶然ではありません。計画書はちゃんと出しています。)

道路は相変わらず通行止め。それでも先週より少しは奥まで入れ、1100m付近でスキーに乗り換える。先ほど車で登ってくる時見た温度電光掲示板は、-12度を示していた。厳しい寒さだ。風が出ないことを祈る。

2合目の大雪原に出ると、分厚い化粧をした、なまめかしいその巨体に、一同興奮する。時折、そのオシロイ粉を巻き上げるのが気になるが。

二つ塚の高さを超えると傾斜も増し、グングン高度を上げる。二つ塚は遥か下方へ遠のくが、宝永の稜線は一向に近づかない。あまり考えなかったが、スタートからの標高差は1600m以上あるのだ。花沢さんは仕事疲れか、調子が出ず、上塚に変更したようだ。山中湖は8割方凍って白い。雪で埋まった測候所中継小屋の屋根でスキーを担ぎ、つぼ足に。クラストが割れ、つらい登りだ。木の杭毎にトップを変わりながら行く。

昭ちゃんは今日18時に納品せねばならぬ仕事があり、2400mより下る。あっという間にマイクロの点になってしまった。後で聞いたが、20分で滑り降りてしまったそうだ。

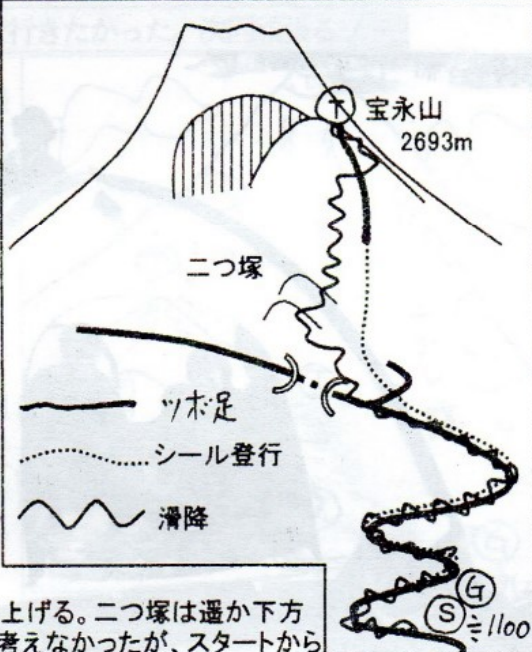
シュカブラがすごい。苦しい登りに加え、時折強風がスキーをあおり、小石を飛ばしてくる。左顔面には痛い粒氷、右顔面には鼻水。ウオー。

よやく宝永の稜線の陰に入り、風もなくなって、12時40分、赤岩の上に着いた。5メートル上の稜線はすごい風だ。

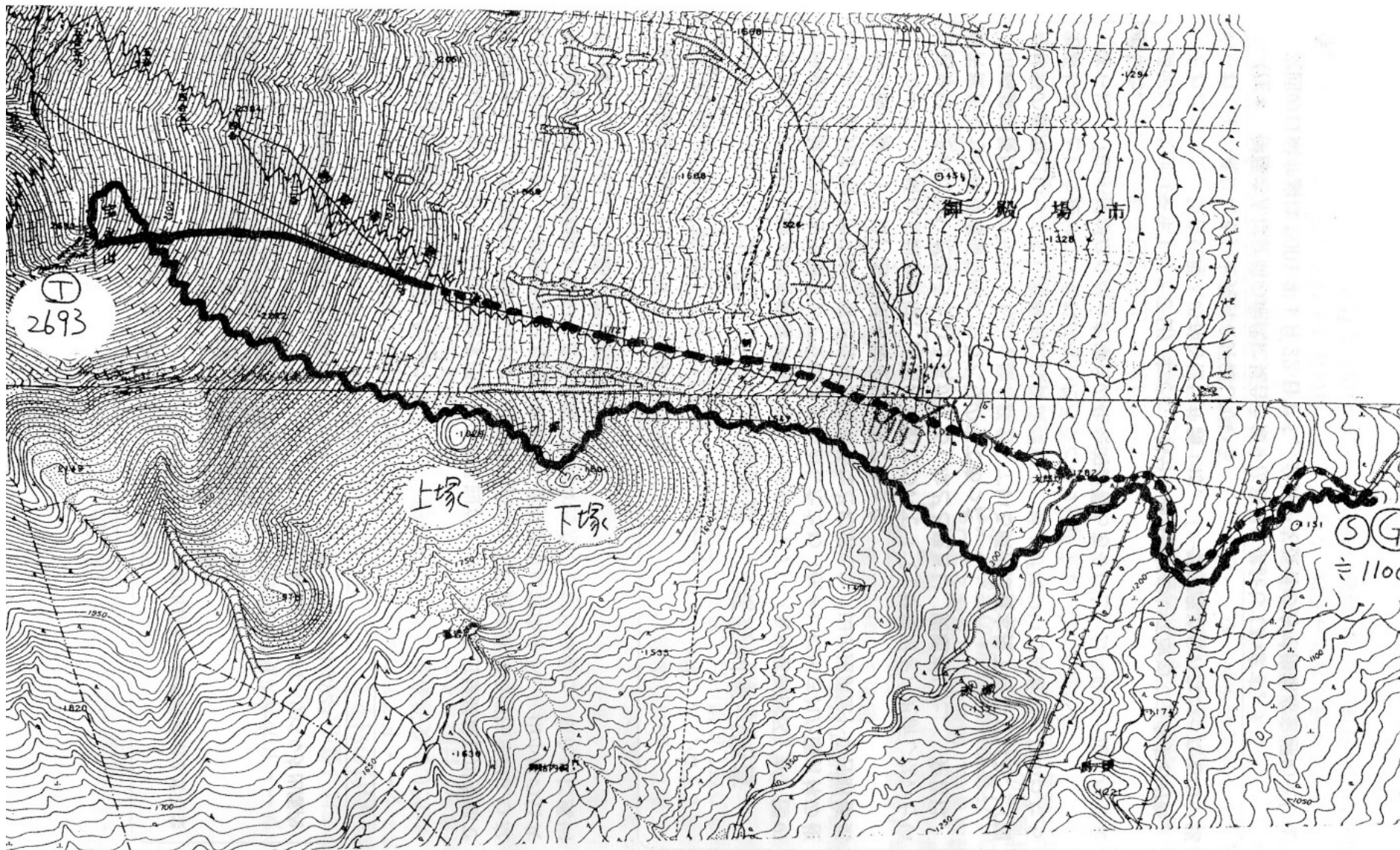
いよいよ滑降です。この為に、この為に長い顔痛めて登ってきたんだ。樹林帯までの標高差1000m以上もある大斜面がわたくしの足元にある。うれちいに決まっています。

上部のシュカブラ帯を避けて、一度須走よりトラバースし、少し下って、宝永の真下の大斜面までまたトラバース。なるべく高度を下げないように。出た~。広い広い。ターンして、ターンして疲れて立ち止まり、振り返れば、宝永は遥か上。しかし、登りとは逆に、今度は二つ塚がなかなか近づかない。上塚とのコルに着く頃には足が終わっていた。夏の無山行がたたっている。後藤さん、加藤さんはどんどん行ってしまった。下塚にすばらしいシュプールを残して。

2合目でビールで乾杯。なんと、三島労山の川田さんと三門さんがきていた。やはり、じっとしていらなかったのだろう。陽が傾き、冷えてきて滑りやすくなり、洞門までの斜面は楽しかった。いつもはとも滑りにくいのだが。さらに周遊道路を滑って、本日の宝永山滑降は終了。ツボ足隊で上塚まで登っていた、山口さんと室野さんも楽しい一日だったようだ。富士山に感謝。







- ..... = シール歩行
- = ツボ足
- ~~~~~ = スキー滑降